

I 上尾市の概要

1. 位置

上尾市は埼玉県南東部に位置し、東京都心から 35 km の距離にあります。東は伊奈町及び蓮田市に、南はさいたま市に、西は川越市と川島町に、北は桶川市と隣接しています。面積は 45.51k m²、東西の距離は 10.48km、南北は 9.32km です。

2. 地勢

上尾市は大宮台地の中央部に位置する起伏の少ない平坦な地形で、西境に荒川、東境に綾瀬川、中心部に鴨川と芝川が平行して流れています。海拔は概ね 15.4m で、最も高い場所で約 20m、低い場所で約 9m です。市の周辺部にはクヌギやコナラなどの雑木林が残り豊かな自然環境を有していますが、近年の都市化の進行により宅地が増加し、農地や緑地が減少する傾向にあります。

3. 都市形成の歴史

本市における都市形成の始まりは江戸時代です。この時代、上尾地区は中山道 69 宿の 5 番目の宿場町として、平方地区は荒川舟運の要衝として、そして原市地区は市場町として、それぞれ発展しました。明治 16 年には、高崎線の上野―熊谷間の開通と同時に上尾駅が設置され、中山道とともに今日の市街地形成の基礎となりました。

昭和 30 年には、上尾町、平方町、原市町、大石村、上平村、大谷村の 3 町 3 村が合併して上尾町となり、3 年後の昭和 33 年 7 月 15 日には市制施行で「上尾市」となりました。間もなく多数の工場が進出し、県内でも有数の工業都市となりました。

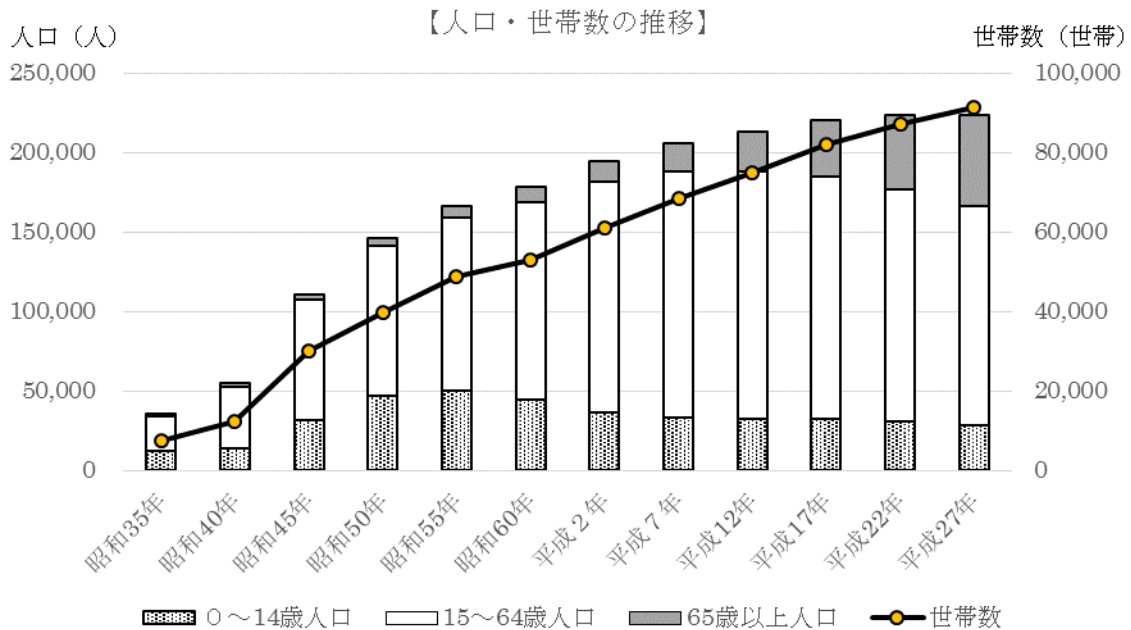
昭和 40 年代に入ると、大規模な住宅団地の進出が相次ぐなど、宅地開発が進行するとともに人口が急増し、住宅都市へと発展を遂げました。一方、上尾駅周辺では商業業務施設の集積が進みました。このような経過をたどり、都市機能のバランスのとれた首都圏の近郊都市として現在に至っています。

4. 人口

平成 27 年の国勢調査による本市の人口は 225,196 人で、さいたま市より北の埼玉県内、JR 高崎・宇都宮線沿線都市の中では最大規模となっています。人口の推移を見ると、産業や住宅の立地とともに昭和 40 年代に急増し、昭和 35 年～55 年の 20 年間に 4 倍(400%)を超えましたが、平成 22～27 年の 5 年間は 0.6%にとどまっており、増加のペースは鈍化しています。

また、世帯数は人口と同様に増加し、平成 27 年の国勢調査では 91,399 世帯となっており、増加のペースは人口を上回り、1 世帯当たりの人員は低下し核家族化が進んでいます。

また、本市の 65 歳以上の高齢者の割合は上昇し、平成 27 年の国勢調査では 25.6%となっています。



[資料：国勢調査]

5. 産業

平成 28 年の経済センサス（活動調査）によると、本市の事業所数は 6,292 事業所、従業者数は 67,915 人となっており、平成 26 年からそれぞれ減少しています。

産業構造では、卸売・小売業や宿泊・飲食サービス業等の第 3 次産業が事業所数・従業者数ともに約 8 割を占めており、重要な産業となっています。また、第 2 次産業の製造業の事業所数・従業者数も約 2 割を占めていることから、本市は商業都市と工業都市の性格を併せ持っているといえます。

第一次産業の農業については、農林業センサスによると農家数、農業就業人口、経営耕地面積ともに減少が続いています。

6. 自然環境

本市は、雑木林、農地、湿地、河川が分布し、里山的な環境があります。特に市域周縁部の市街化調整区域には、質の高い自然環境が残されています。本市に残されている里山は、いわゆる「武蔵野の雑木林」といわれるクスギやコナラなどの林です。かつて、雑木林は燃料としての薪や落ち葉を利活用するために人の手が入れていましたが、化石燃料の普及により次第に人の手は遠退いてしまいました。

一方、人口の急増によって都市化が進展した結果、身近な緑・水辺が減少しており、残された貴重な自然環境を保全するためには、緑地保全制度等の P R 活動を積極的に行い自然の大切さを伝えていくことが重要となっています。